

法人名 (財)やまなし文化学習協会

公益法人用

【法人の概要】

代表者名	大澤 英二		所管部(局)課	企画県民部生涯学習文化課		
所在地	甲府市朝気1-2-2		電話番号	055-235-4171		
ホームページURL	http://www.yamanashi-bunka.or.jp		E-mailアドレス	info-bun@yamanashi-bunka.or.jp		
資本金(基本財産)	15,000	千円	設立年月日	平成11年4月1日		
主な出資者	出資順位	出資者名		出資額		出資比率
	1	山梨県		15,000	千円	100.0 %
	2				千円	0.0 %
	3				千円	0.0 %
	4				千円	0.0 %
	5				千円	0.0 %
	6				千円	0.0 %
	7				千円	0.0 %
	8				千円	0.0 %
	9				千円	0.0 %
	10				千円	0.0 %
その他	団体(者)			千円	0.0 %	
設立目的 経緯 概況等	<p>設立目的:個性あふれる文化の創造と生涯学習社会を構築するための環境や人づくりを支援し、もって、潤いのある県民生活の実現に寄与する。 概況:文化の香り高い山梨の実現に向け、県民の自発的な芸術文化、生涯学習を支援し、生涯学習を基盤とした生涯設計、社会生活の創造、地域文化の振興を図るとともに、地域社会の活性化を担う人材の育成に資するための事業を実施している。 指定管理者制度を導入した山梨県県民会館(平成18年度から25年度まで)、甲斐市双葉ふれあい文化館(平成20年度から27年度まで)及び山梨県立男女共同参画推進センター(平成21年度から25年度まで)の管理運営。また、生涯学習推進センターについては平成11年度から県から業務委託を受け、管理運営と県民の生涯学習活動の支援を行っている</p>					

【主要事業の概要】

事業名	内容	事業費(単位:千円)		
		H20年度	H21年度	H22年度
事業1 男女共同参画推進事業	男女共同参画社会の実現に向けて各種講座を開催し普及啓発を図る。男女共同学講座等の開催。また、女性の一般的な問題悩みに対して電話及び面接による女性総合相談を行っている		139,601	142,727
事業2 芸術文化振興事業	甲斐市双葉ふれあい文化館において芸術観賞事業や市民芸術文化活動の支援等を行っている	52,452	55,094	51,015
事業3 生涯学習推進事業	学習情報の収集・提供、まなびネット運営、移動学習相談事業、山梨学講座等の開催ほか	51,265	46,522	47,027

【組織】

年度	平成21年度					平成22年度					平成23年度								
	職 員	プロ パ ー 員	派遣 兼 務	県 職 員	県 O B	其 他	職 員	プロ パ ー 員	派遣 兼 務	県 職 員	県 O B	其 他	職 員	プロ パ ー 員	派遣 兼 務	県 職 員	県 O B	其 他	
4月1日現在の人員																			
役員	理事(常勤)	1	1				1	1				1	1						
	理事(非常勤)	10		2		8	10		2		8	10		2		8			
	監事(常勤)	0					0					0							
	監事(非常勤)	2		1		1	2		1		1	2							2
	評議員	11		2		9	11		2		9	11		2		9			
計	24	1	5	0	18	24	1	5	0	18	24	1	4	0	19				
職員	管理職	5	5				5	5				5	5						
	一般職員	11	11				10	10				10	10						
	臨時職員	3	3				5	5				6	6						
	非常勤職員	12	11		1		11	10		1		11	10		1				
計	31	30	0	1	0	31	30	0	1	0	32	31	0	1	0				
プロパー職員の年齢構成 (H24. 4. 1現在)	年齢	~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61歳以上	合計											
	男性				7	6	1	14	役員										
	女性		1	2	8	5	2	18	常勤	※								(千円)	
合計	0	1	2	15	11	3	32	職員									(千円)		
※常勤役員は一名のため個人情報保護の観点から、非公表。																			
平均年齢 48.5 平均年収 5,739																			

【経営の状況】

(単位:千円)

項 目		20年度	21年度	22年度	増減(22-21)
正味財産の状況	基本財産運用益	60	38	15	△ 23
	受取会費・受取寄付金	516	0	0	0
	受託事業収益	307,304	214,871	219,135	4,264
	自主事業収益	172,133	26,922	24,201	△ 2,721
	受取補助金等	9,265	5,566	800	△ 4,766
	その他の収益	6,196	19,742	15,536	△ 4,206
	経常収入 計	495,474	267,139	259,687	△ 7,452
	事業費	460,227	255,484	247,420	△ 8,064
	うち人件費	166,502	127,446	135,522	8,076
	管理費	14,666	13,317	11,599	△ 1,718
	うち人件費	14,615	11,416	10,511	△ 905
	経常支出 計	474,893	268,801	259,019	
	当期経常増減額	20,581	△ 1,662	668	2,330
	経常外収入	0	0	0	0
	経常外支出	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	20,581	△ 1,662	668	2,330	
当期指定正味財産増減額	76,378	96,959	95,297		
正味財産期末残高	96,959	95,297	95,965	668	

(単位:千円)

項 目		20年度	21年度	22年度	増減(22-21)
財務状況	流動資産	124,588	105,602	99,844	△ 5,758
	固定資産	15,364	15,182	15,000	△ 182
	資産 計	139,952	120,784	114,844	△ 5,940
	流動負債	42,993	25,487	18,879	△ 6,608
	うち短期借入金	0	0	0	0
	固定負債	0	0	0	0
	うち長期借入金	0	0	0	0
	負債 計	42,993	25,487	18,879	△ 6,608
	正味財産	96,959	95,297	95,965	668
	うち基本財産への充当額	15,000	15,000	15,000	
うち特定資産への充当額	0	0	0		

(単位:千円)

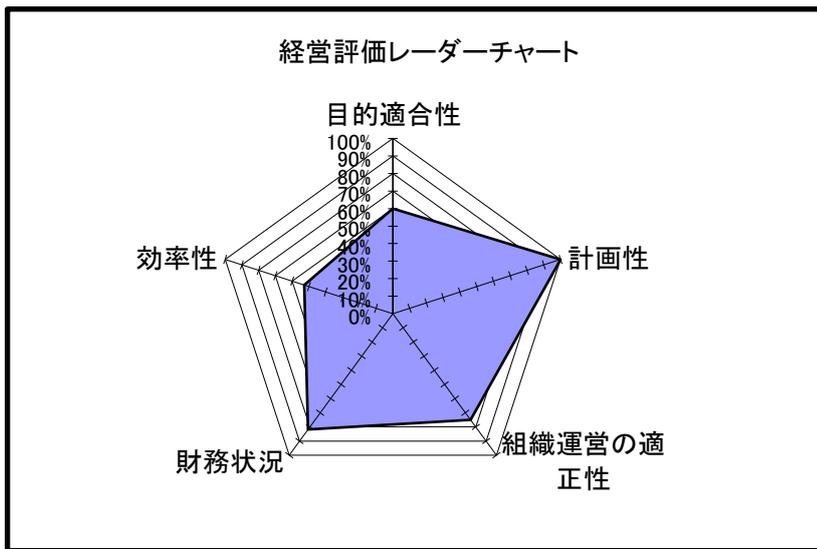
項 目		20年度	21年度	22年度	増減(22-21)
県の財政的関与の状況	負担金	0	0	0	0
	人件費(派遣法)補助金	0	0	0	0
	人件費(派遣法以外)補助金	0	0	0	0
	人件費以外の補助金	0	0	0	0
	運営費補助金	0	0	0	0
	事業費補助金	3,452	3,695	0	△ 3,695
	補助金 計	3,452	3,695	0	△ 3,695
	人件費(派遣法)委託金	0	0	0	0
	人件費(派遣法以外)委託金	42,534	36,211	39,981	3,770
	人件費以外の委託金	224,970	138,860	139,354	494
	委託金 計	267,504	175,071	179,335	4,264
	県支出金 計	270,956	178,766	179,335	569
	県の財政的関与の割合(%)	54.7	66.9	69.1	2
県貸付金残高	0	0	0	0	
県債務負担実際残高	0	0	0	0	

【県の財政的関与の内容・目的・金額】

項目	内容・目的・金額
負担金	
補助金(運営費)	
補助金(事業費)	地域の文化・芸術活動支援事業助成金(双葉ふれあい文化館)
委託金	県民会館展示会場の管理運営、生涯学習推進の拠点施設である県生涯学習推進センターの運営、男女共同参画推進の拠点施設である県男女共同参画推進センターの管理運営
債務負担行為	指定管理委託料

【自己評価・評点集計】：(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	5	20	12	60.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	5	20	20	100.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	4	16	12	75.0%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	11	44	36	81.8%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	9	36	19	52.8%
合計		34	136	99	72.8%



【警戒指標】

--

【出資法人の自己評価】：(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	設立目的に適合した業務を適切に行っており良好である。
計画性	中長期計画、年次事業計画に基づいた運営をしており良好である。平成21年度からは管理運営施設の変更に伴い、より健全な協会運営をしていくため経営計画を作成した。
組織運営の適正性	平成21年3月末には組織・人事・財務等の内部管理体制を新たに整備をした。又事業報告・財務情報等は適切に公開しているので良好である。
財務状況	平成21年度から管理施設の変更があったことにより、経営環境が変化したため、経費を抑えながら事業を実施し、利用者の増加を図っている。また、常に収入・支出の状況のチェックを行い、財務状況がより良い数値になるよう今後も努力をしていく。
効率性	各施設とも職員数は必要人数での運営を行っている。管理施設の変更による規模の違いから、一人あたりの売上高などは20年度との比較では低評価となった。又東日本大震災により利用者の減少及び利用率への影響があった。今後も収益力や施設利用率が向上するようさらに努力する。
総合的評価	H21年度策定の経営計画に基づき、健全な経営を行っており、おおむね良好である。今後も各施設とも利用者に安全で利用しやすい施設づくりに努めながら運営をしていく。H24年度からは公益財団法人に移行する予定であるが、経営体質の一層の強化を図っていく。



対応策	管理施設については、県民ニーズの的確な把握と積極的な事業展開、質の高いサービスの提供、また、経費削減のさらなる努力などにより、より評価の高い施設運営を行っていく。また、引き続き定期的に差異分析を行う中で経営課題を掘り起こし、その見直しを常時行うことにより健全経営に努めていく。
-----	--

【法人担当部局の所見】:(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	県民会館、生涯学習推進センター、男女共同参画推進センター、双葉ふれあい文化館の管理運営を行い、県民の文化振興、男女共同参画社会の推進を支援する事業を実施している。
計画性	経営計画に基づいた経営を行っている。社会情勢、経営状況等を勘案し、計画の見直しを行っていくことが望ましい。
組織運営の適正性	H21年度より協会の経営形態が大幅に変わったことから、厳しい経営環境にはあるが、職員の職務への動機付けに留意し、職員の自主性・創造性を引き出す努力をする必要がある。
財務状況	H21年度に経営状況が大きく変化したことから、今後も厳しい経営が予想される。引き続き収入の増加に努めると共に、さらなる経費削減を図っていくことが必要である。
効率性	計画に基づき人件費の抑制、管理経費の削減に努めている。今後も魅力ある事業の実施等に努め、積極的な事業展開を図る必要がある。
総合的評価	H21年度から厳しい経営状況が続いているものの、人件費の抑制・管理運営費の削減等、健全な経営に向けて努力を行っている。H24年4月の公益財団法人への移行認定に際しては、遺漏のないよう万全を期すこと。

【総合評価】:(経営評価委員会、経営評価アドバイザーによる総合評価)

今後更なる改善、見直しを行うべき視点	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">目的適合性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">計画性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">組織運営の適正性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">財務状況</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">効率性</div> </div>
総合的所見	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">A (75%~)</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">B (60%~75%)</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">C (50%~60%)</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">D (~50%)</div> </div> <p>・平成21年度は、新公益法人会計の適用による賞与引当金の計上により、赤字となったが平成22年度決算については黒字に転換した。 ・借入金等はなく健全な財務状況であるが、安定した経営体制を確保するためにもさらなる経費の抑制や収入増に努力する必要がある。 ・指定管理による収入が大きな柱となっているため、今後も職員の意識改革など、更新に向けた取り組みが必要である。</p> <p>※ ランク下の%は得点率の範囲</p>



【総合所見等に対する今後の対応方針】

<p>平成24年度からの公益財団法人への移行に伴い、より一層公益性を意識しながら、利用者へのサービス向上、経費の抑制等に留意して健全な法人運営を行っていく。また併せて、職員の資質を向上させるため各種研修会や資格取得講座への積極的な参加を行い、組織の活性化に努めていくこととする。また、現施設の指定管理の更新に向け、利用者のニーズに合わせた魅力ある事業展開を図るよう取り組んでいく。</p>
--